

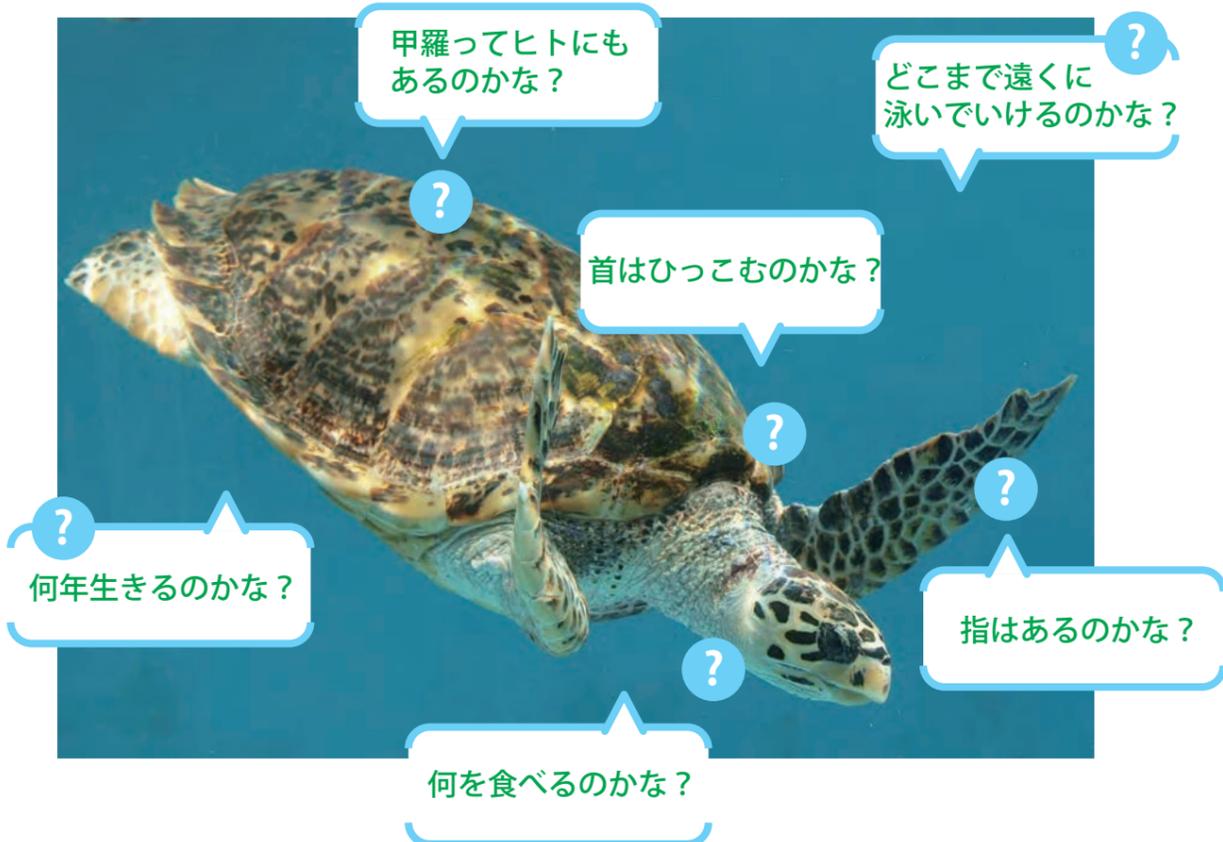
ウミガメの不思議

浦島太郎のおとぎ話で、幼い頃からなじみのあるウミガメですが、みなさんは見たことがありますか？ 沖縄の美しい海の中でも近年数が減り続けています。世界中で保護する動きがありますが、実はウミガメの生態はまだわからないことがたくさんあります。ウミガメの不思議にふれて、海が持つ神秘の世界を覗いてみましょう。



ウミガメの不思議

ウミガメを見たことがありますか？ どういう場所に暮らしているか知っていますか？
何を食べているのでしょうか？ 何年生きるのでしょうか？ そもそも甲羅って何なのでしょう？
よく考えると、ウミガメには不思議がいっぱいです。



1. ウミガメはどこからやってきた？

1) 海に生きる『は虫類』

は虫類の仲間：ヘビ、トカゲ、ワニ、カメなど
卵生：卵殻を持った卵を産みます。
仔ガメは黄身の栄養をもらいながら卵の中で成長、孵化します。
は虫類の体の特徴：環境の温度で体温変化する変温動物です。



リュウキュウヤマガメ (ヌマガメ科)



陸地



海

ホシガメ (リクガメ科)

2) 陸からやってきた『は虫類』

『は虫類』のほとんどは、陸上に生息しています。ウミガメの祖先も、もともとは陸上に生息していましたが、海で生きることを選んだ特殊なカメが、ウミガメです (海に進出した『は虫類』は、他にウミヘビの仲間などがいます)。
ウミガメが陸上で卵を産むのは、もともと陸の生き物であったからだと考えられています。

沖縄で確認されているカメ

- ウミガメ上科**
ウミガメ科 アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、ヒメウミガメ、クロウミガメ
オサガメ科 オサガメ
- リクガメ上科**
イシガメ科 ヤエヤマイシガメ、クサガメ、ヤエヤマセマルハコガメ、リュウキュウヤマガメ、
ヌマガメ科 ミシシippアカミガメ
スッポン科 スッポン

2. リクガメとウミガメの違いは？

陸に棲むリクガメと海に棲むウミガメには、大きな違いがあります。

1) 『アシ』と『ヒレ』の違い

リクガメには陸上を歩くための『アシ』がありますが、ウミガメは海の中を泳ぐため、船のオール役目をする『ヒレ』があります。これはイルカや魚のヒレによく似ています。
ウミガメのヒレにも、ちゃんと5本の指の骨があります。



5本の指がある



リクガメ (ホシガメ)



ウミガメ (アカウミガメ)

2) 首をひっこめることができない

リクガメは危険が迫ると、首や足を引っ込め、丸く縮まって身を守りますが、ウミガメは首や足を引っ込めることができません。



リクガメ (ホシガメ)



ウミガメ (アカウミガメ)

甲らに首はひっこまない

Q ウミガメクイズ ① 食べ物

『ウミガメ』は種類によって、暮らす場所も食べ物も異なります。沖縄の海で見られるウミガメが何を好んで食べるのかを想像して、線をつないでみましょう。



アカウミガメ アオウミガメ タイマイ オサガメ



海藻・海草 クラゲ 貝類 海綿

Q ウミガメクイズ ② 産卵

沖縄の海では6種類のウミガメが確認されていますが、主に沖縄で産卵するウミガメは、どのウミガメでしょうか？



アカウミガメ アオウミガメ タイマイ



クロウミガメ ヒメウミガメ オカザメ

ウミガメのヒミツ① 甲羅ってヒトにもあるのかな？

実は私たちヒトにも『甲羅』に相当する部分があります。それは『骨』と『皮膚』です。カメはその『骨』と『皮膚』を『甲羅』に進化させることで、自分の肉体を守っています。
カメの『甲羅』は骨の一部なので、はずすことはできません。



解答は本誌の中ページを確認しましょう。ページの中にヒントがあります。

5. ウミガメの一生 — 砂浜を脱出して海へ —

ウミガメの中には、大海原を旅して成長する種があります。最も典型的な例が、アカウミガメです。

1) 砂浜から海へ

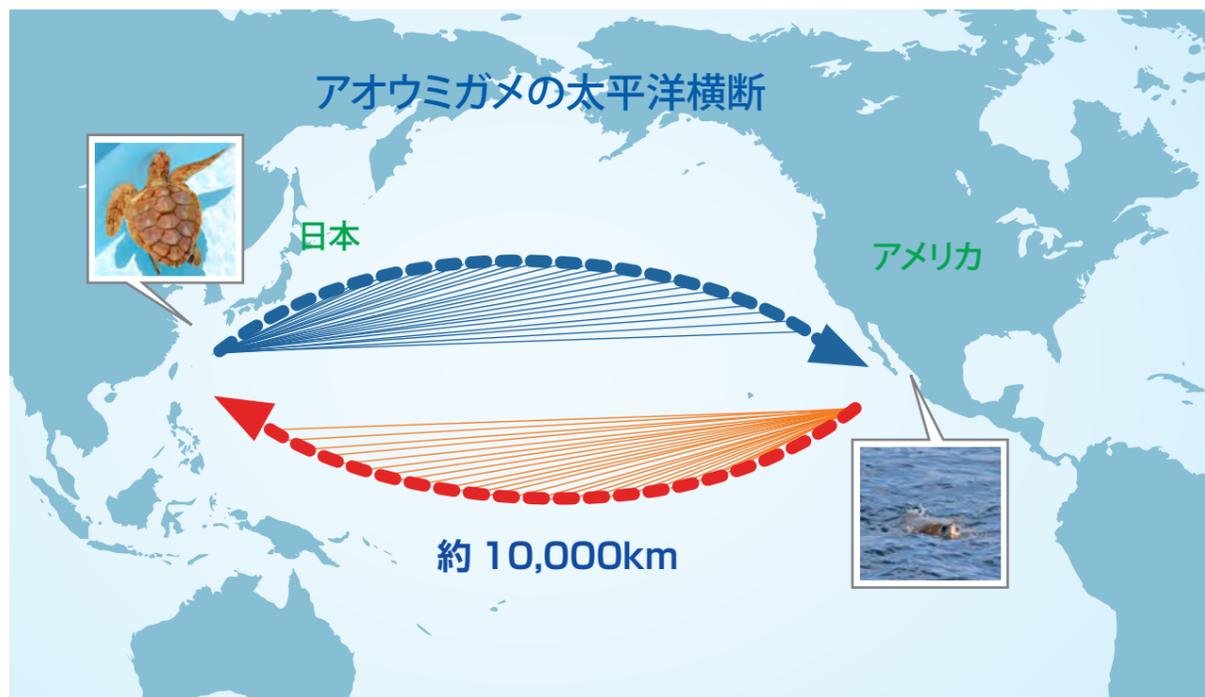
産卵から2ヶ月後、夜に卵から孵化します。仔ガメたちは、砂の中から出て、陸より明るい水平線を目指して海へと向かいます。仔ガメたちには、紫外線（ヒトには見えない）を感知する能力が備わっていて、海に反射した太陽の光をたどることができます。



2) 仔ガメが生まれもった本能

砂から脱出した仔ガメたちは、前足を活発に動かして、海へと入ります。海に入った後も活発な遊泳は続き、沖合へと向かいます。この活発な状態は、脱出後約24時間続き（アオウミガメの場合）、それが終わるとこの状態はぴたっとなくなります。この活発な状態を『フレンジー』といいます。

仔ガメたちにとって、砂浜から沖へ出るまでが最も危険が多い場所です。海岸ではカニ、犬、カモメ、カラスなどが待ち構え、浅瀬には魚やサメといった多くの天敵が存在します。仔ガメたちには、生まれながらに、危険ゾーンを切り抜けるまで動き続けるという本能『フレンジー』が備わっています。



無事に沖合にたどり着いた仔ガメは、海流を利用しながら、長い旅に出ます。アカウミガメには約10,000kmの距離を移動して、アメリカのサンディエゴ沖までたどりついた記録があります。

ある程度成長したアカウミガメは、再び日本周辺に帰ってきて、繁殖活動に参加します。

ウミガメの生態は、わからないことがたくさんあります。実は何歳まで生きるかも詳しくはわかっていません。

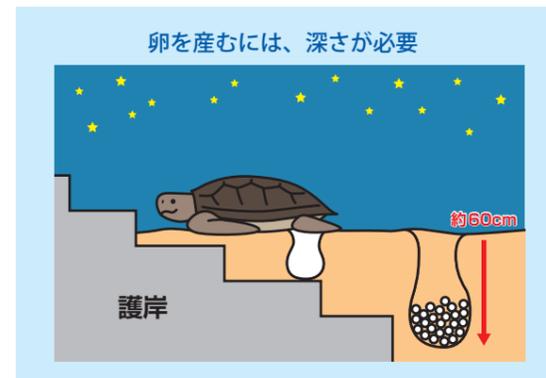
親ガメと仔ガメの大きさの比較



6. ウミガメを取り巻く環境問題

1) 砂浜をめぐる問題

ウミガメのお母さんは、砂浜の安全な場所を選んで卵を産みます。ところが最近、護岸による砂浜の減少、人通りの増加、車の往来等により、ウミガメが産卵できる場所が減少しています。



産卵から2ヶ月程で卵は孵化し、仔ガメは海に向かいます。ところが、仔ガメは正の走行性（光に向かう習性）を持つので、街灯がある方向を海と勘違いしてしまいます。



もしも、わたしたちがウミガメだったら、どんな場所で産卵したいでしょうか？

2) 私たちにできること

ウミガメを守るためにできることは？

日本にいるウミガメのうち、アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイは絶滅が心配されている種類です。わたしたちがウミガメを守るためにできることは一体どんなことがあるのでしょうか？

ウミガメを守るためにどんなことができるでしょう？